



『学園が創設された時代背景』

今回は、常翔学園の前身である「関西工学専修学校」が創設された時代背景や、近代大阪の歴史についてご紹介します。

1. 今日の大阪の礎が築かれるまで ～商工業都市・大阪の誕生～



五代友厚 銅像
(北浜・大阪証券取引所前)

江戸時代半ばまでの大阪（大坂）は、国内の東西南北につながる交通の要衝にあったため、年貢米を中心とした様々な物資が集まり「天下の台所」と呼ばれていました。しかし、江戸末期には年貢米市場が縮小したこと、幕末・維新时期には大阪の豪商に御用金が課せられたことなどにより、大阪の経済は徐々に衰退していきました。

明治維新の後、低迷していた大阪経済を復興させた担い手の一人が、NHK 連続テレビ小説「あさが来た」で話題になった**五代友厚**（1836-1885）です。「近代大阪経済の父」と呼ばれる五代は、大阪株式取引所や大阪商法会議所（注1）などの経済機構を設立したほか、同会議所の初代会頭にも就任、大阪経済の再生に尽力しました。

一方、**渋沢栄一**（1840-1931）らが設立した「大阪紡績（現在の東洋紡）」の成功を契機に、大阪には続々と紡績会社が設立されます。これを契機として大阪は商工業都市として発展を遂げ、その様子は「東洋のマンチェスター」と称されるほどでした。

なお、この二人の実業家は、わが国の近代経済の発展に偉大な業績を残したとして「**東の渋沢、西の五代**」と呼ばれています。

2. 東洋一の大都市に ～「水の都」大阪は「煙の都」とも呼ばれました～

大正時代に入り、1914年に第一次世界大戦が勃発すると、大阪は第一次世界大戦による特需景気の影響を受け、これまでの紡績業のみならず、金属、化学、卸売商業などが著しく発達し、大阪港で取引される貿易量も急増します。

それに伴い、大阪の主要な産業は、これまでの紡績業を中心とした軽工業から金属、化学などの重工業へと変化していきます。

重工業化にともなって、林立した工場の煙突から吐き出される黒煙が空を覆い、大阪は「**水の都**」から「**煙の都**」へと変貌を遂げます。（注2）

3. 時代が求めた工業技術者の育成 ～時代と地域の要請に応えるために～

大正時代になると、各都市で製造工業の急激な発展、物資移動の増大、人口の加速度的増加、交通機関の発達などにより、新しい街づくりの必要性が高まってきます。大阪市でも人口集中が続き、関東大震災の2年後の1925年には市域の大幅拡張が行われ、人口や経済規模で**大阪市は東京市を抜いて日本一、そして東洋一の大都市になりました**。当時の大阪市民は、自ら我が街を「**大大阪（だいおおさか）**」と呼び、誇りとしました。（注3）

社会が急激な近代化を遂げ、都市への人口集中が続きますと、職住分離を柱とする新しい都市基盤～いわゆるインフラ～の整備が必要となり、そのために、多くの分野で専門技術者が必要となります。しかし、当時は工業技術者の絶対数が不足しており、近代的産業都市として発展しつつある大阪にとって、最も深刻な社会的課題の一つでした。

このような状況を受けて立ち上がったのが、今日の大阪市の街づくりの基礎を作った都市計画の権威であり、内務省の都市計画調査委員会などの要職も務めた**片岡 安**（1876-1946）と大阪府建築課長・土木課長、大阪市港湾部長・水道部長など、官公庁で要職に就いていた者など11人。彼らが創設理事となって現場で即戦力として活躍できる技術者の育成を目的とする「**関西工学専修学校**」を設立しました。これが今日の常翔学園の始まりになります。

このように、時代と地域の強い要請により誕生した「関西工学専修学校」。片岡は創立十周年記念式典の挨拶の中でこう語っています：

“本学園は官辺の補助を受けず、また富豪の寄付をも仰ぐことなしに全く関係者の犠牲的精神の結晶で作られたものであります” “この点におきまして本学園は大いに天下に誇ってよいのであります” （校友会誌第2号、昭和7年12月発行）

（注1）大阪商法会議所は、現在の大阪商工会議所の前身です。初代会頭が五代友厚です。

関西工学専修学校初代理事長である片岡 安も、同会議所の第13代会頭を務めました。

（注2）当時は公害や環境問題というとらえ方ではなく、大阪重工業の発展の象徴とされました。

（注3）「大大阪」の詳細について、「常翔History」第3号および第4号で特集する予定です。



開校当日の関西工学専修学校
（1922年10月1日）



常翔歴史館では、学園創設期から今日にいたるまでの「学園のあゆみ」を、写真や展示物などを通して紹介しています。

① 開館時間：月曜日～金曜日の11:00～17:00

【学園が定める休業日は除く】

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務室

（内線／大宮 801-7762）